

## 1 第32回日本数学オリンピック本選に本校生徒が出場！

1月8日（土）に日本数学オリンピック（JMO）、ジュニア数学オリンピック（JJMO）の予選が実施され、高校1年の吉藤君が見事本選出場を果たしました！本選は2月11日（金）で、今年はオンラインにて行われました。

今年は高校生が10名、中学生が11名と例年にくらべて非常に多くの生徒がJMO、JJMOに参加してくれました。数学系のコンテストはハードルが高く見られがちですが、この調子で（数学オリンピックに限らず）いろいろなコンテストに皆さんが参加してくれるのを期待しています。

## 2 科学の甲子園全国大会にオンラインで参加！

3月19日（土）に、科学の甲子園の全国大会が行われ、本校の生徒が2年連続で出場しました。

昨年は全国優勝も果たし本校でも話題になったこの大会ですが、今年は分散開催となり各都道府県の会場で同時に問題を解きました。実技競技もなくなり少し寂しい大会となりましたが、参加者の生徒は日頃の努力の成果を発揮すべく筆記競技に一生懸命取り組んでいました。

4月25日（月）の表彰式で結果が発表されます。



## 3 【中学2年】京都大学大学院理学研究科附属花山天文台 特別講義

1月25日（火）に、京都大学大学院理学研究科附属花山天文台の浅井歩准教授を招き、中学2年生対象に特別講義「最新観測で分かった太陽の正体」を実施しました。90年以上もの歴史をもつ花山天文台の歴史や設備、迫力ある太陽映像、宇宙天気予報など、幅広く教えていただきました。秋に理科の授業で天体について学習しましたが、この特別講義でさらに理解を深めることができました。



## 4 高2文理コース 地球科学基礎 特別講義「難民—ミャンマー、そしてウクライナ」

3月14日（月）に総合地球環境学研究所の宗田勝也先生による特別講義「難民—ミャンマー、そしてウクライナ」を実施しました。クイズ形式で、事例ごとに難民にあたるのか否かを考えることをとおして、難民について理解を深めました。どのような人を難民というのかはもちろん、2020年末時点で、紛争や迫害により故郷を追われた人の数は世界で8240万人いること、難民問題の解決には平均で17年かかることなど、初めて知ることがたくさんありました。また、受け入れた後の支援のことや、根本的な問題解決の難しさなどたくさんの課題があることも学びました。「突然、家に帰ることができなくなったらどうするか」という問いかけに、多くの生徒がどうしたらよいかかわからないと感想に書いてくれていました。でもそれが現実起きていて、日本にも実際に難民の方々が出て、ウクライナでは今も故郷を追われる人が増えている。私たちに何ができるのか、何をすべきかを考えさせられた1時間となりました。

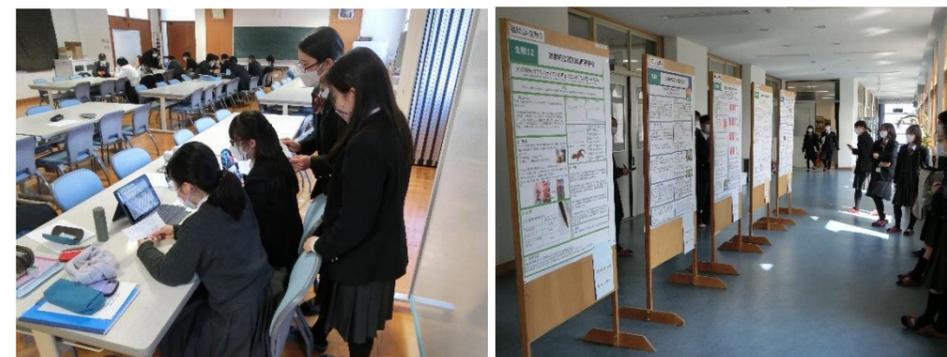
## 5 課題探究Ⅱ 生徒研究発表会を開催しました

3月10日（木）に課題探究Ⅱ 生徒研究発表会がオンライン形式とポスター掲示で同時並行開催されました。

サイエンス科の高校2年生にとっては、これまで取り組んできた課題探究もついに大団円。

コロナウイルス対策のため、ぎりぎりまで検討したのですが、やはり口頭発表は実施できませんでした。

が、オンラインでの生徒発表はどれも熱のこもった出来栄になり、ご招待した大学教員や大学院生の皆さんと活発なディスカッションが起きました。生徒諸君の、ここまで一生懸命取り組んだ課題探究への思い、のようなものが感じられる発表会になりました。また、後輩にあたるサイエンス科の1年生と附属中学校3年生には研究成果をまとめたポスターをじっくりと見学してもらいました。今年度はポスター発表用のショートムービーも公開されましたから、発表者不在のさみしさが少々解消されたであろうことを願います。来年も再来年も、取組を発展させながら洛北高校の課題探究は続いていきます。来年こそ口頭発表が実現しますように。



## 6 高1文理コース 物質科学基礎 特別講義 堀場製作所「“はかる”と“わかる”」

2月8日（火）6限に堀場製作所の南條美樹氏を招き「“はかる”と“わかる”～私たちの暮らしを支える「はかる」技術～」をテーマにオンラインで特別講義を行いました。堀場製作所の社是である「おもしろ おかしく」をもとに、日本で初めてpHメーターをつくったことや、ペットの血液検査における分析技術の改良に触れ、食料品、化粧品、医薬品など幅広い分野での研究・開発の内容をわかりやすくお話いただきました。また、はやぶさで持ち帰った小惑星リュウグウの資料分析、太平洋沖の噴火でできた軽石の分析やバイオヘルスケアの取組などに生徒たちは、「普段の生活で目にするものの少ない分析や計測の仕事があることで、おいしいもの、きれいな環境、学問の進展、動物・人の健康などが守られていることを知ることができてよかった」など分析技術に対する視野を広げることができました。

## 7 高1文理コース 生命科学基礎 特別講義「世界の魚を追いかける」

3月11日（金）4限本校の視聴覚室で、生命科学基礎の最後の授業として京都大学フィールド科学教育研究センターの三田村啓理先生に特別講義「世界の魚を追いかける」を行っていただきました。外部講師によるZoomでのリモート講義は何度かありましたが、今回は本校に来ていただいたの対面での講義になりました。三田村先生は超音波バイオテレメトリーという技術を駆使して世界のさまざまな生物の生態を研究されています。今回の講義ではニホンウナギの生態についての研究を主にお話いただきました。食材としても親しみのあるウナギですが、その生態については近年の調査で徐々に解明されてきました。先生がフィールドで撮影された動画での説明があったり、グラフのデータを使ってウナギの行動について考察する時間とって頂いたりとおっしゃった1時間でした。多くの生徒が海の生き物の生態の面白さや研究の楽しさを実感する充実した時間になりました。